



voice 《おいでよ！HOZEN》 全力！保善生のリアル

今回は1年2組に在籍している宮下 和丸(みやしたやまと)君にお話を伺いました。宮下君は現在特別進学クラスに身を置き成績上位を修めている一方、強化指定クラブの陸上競技部で練習を積み重ねている、文字通り文武両道の生徒です。休校期間中の取り組みも大変優秀だったことが印象的で、今回はその様子もご紹介したいと思います。聞き手は、編集部で特別進学クラス担任でもある細谷先生です。

新しい生活様式のなかで

——早いもので今年度が終わります。
この一年振り返ってみてどうでしたか？

今年は異例の事態で、勉強も部活も例年とは違いましたけれど、ウイルスがあったからこそ、新しいことに気付けたような気がします。たとえば、以前は普通に学校に行って授業を受ける毎日でしたが、家にならなくてオンラインで授業を受けたり、家の中でやることも多くなって、いつもと違う体験ができたように思います

——たとえば、どんなことがありましたか。

オンライン授業とか、あとは家の中で読書をする時間も増えました。また、いつもは家族とあまり会話をしないのですけど、みんな家にいるので、家族と会話する機会も増えました。

——オンライン授業は、受けてみてどうでしたか。

普段の授業だとたまに聞き逃してしまうことがあるのですけど、オンラインだと10秒早送りしたり、巻き戻したり、一時停止して問題を解いたり、理解が深まったという思いがあります。

——なるほど。家族と会話が増えて、何か変わったことはありますか。

お姉ちゃんが大学生で、大学は学内への立ち入りができない状況が続いています。中学生のときはお姉ちゃんとは夕食時くらいしか話をしなかったのですけど、よく会話をするようになりました。また、これまでやっていなかった食器洗いとか掃除機とかの、簡単な家事を時間のあるときにやってみる、というのは新しい経験でした。

——なるほど、そうですか。ところで、保善は休校中もオンラインで授業が進んでいましたけれど、家ではどのくらい計画的にやっていたか。

提出物は、出さないといけないものであるととらえていました。そのため、最低限に期限までに出すことを意識してやっていました。他のものをプラスアルファで勉強するというよりは、動画で配信されたものを見たり、練習問題を解いたりして、それを身に付けるというつもりでやっていました。



——私も一担当者として数学をみていたので、宮下君の提出状況の良さは大変感心していました。しっかりやろうと意識していたのですね。休校中は担任の顔もわからなければ、周囲の友達顔もわからなかったと思うのですけれど、高校生になったのに高校に通っていないあの時期には、どういうことを考えてましたか？

高校に入って、部活等も楽しみにしていて、つらいなと思ったこともあったのですけれど、学校が再開されるのを楽しみにして、つらいけれど仕方がないかという、気持ちでした。

——学校が再開したときは、どうでしたか。

それまでずっと家において、友達や先生と接する機会がなかったのですけれど、学校が始まって、友達とかと会えたときは嬉しいと思いました。6月に再開したのですけれど、6月なのにみんなまだ緊張している様子で、違和感も少しありました。



毎日続ける陸上が、好き

——部活は、陸上競技部でしたよね。

長距離部門です。中学1年生から始めました。

——始めたきっかけはなんですか。

小学6年生まではサッカーをやっていたのですけれど、練習が始まる前に走ったりするのが楽しくて、陸上のほうが楽しいかなと思い、始めました。

——そういう入り方もあるのですね。ボールを蹴ることよりも走ることが楽しいという感じですか？

もちろんサッカーも楽しかったのですけれど、長距離は練習すればするだけ結果が得られる気がします。サッカーは努力もあるけれど才



能も必要のように思い、自分はトップまでいくのは難しいのではないかも感じました。

——すると、保善高校を知ったのは陸上競技の関係からですか。

そうです。中学生のときに通っていた陸上クラブで保善の名前が出て、調べたところ、関東大会にも出場しているし、文武両道などところがあり、保善高校に進学しようと思いました。

——学校が再開して以降も、活動が十分にはできていないと思いますが、高校の部活動はどうですか。

たとえば毎日朝練があったり、山練習があつて……。

——山練習とは？ 箱根山？ [注]

箱根山も使うのですけれど、高尾山まで訪れて練習をすることもあります。高校ではそのような中学時代にはなかったメニューも取り入れているのだと思いました。

中学生の時は塾などもあり、自分から走ろうという意志も弱く、あまり練習を詰めてはいませんでした。しかし高校では部活に入り、本格的に陸上を始めることだし、自分で毎日走ろうと思い、必要なところを乗り越えれば結果も得られるし、それで楽しいと思うし、毎日頑張ろうと思いました。

[注] 箱根山

戸山公園は、保善高校に面した戸山地区と、明治通りの東側にある箱根山地区に分かれています。後者に、標高 44.6m の人造の山である箱根山があり、よく部活動のトレーニングにも用いられている。

——部活動にあたって気にかけていることはありますか。

陸上競技、特に長距離は、1日2日休んだだけでも結構後に支障が出るので、毎日継続することが大切です。それこそ走らない日はないくらい、毎日少しでもいいから走ることにしています。あと筋トレではないですけど、補強と言って、体の体幹を鍛えることをやっています。

——では休校中も、相当走ってたんですね。

そうですね。基本は家にいてオンライン授業に取り組みますけれど、空いている時間には結構走っていました。

——ところで、趣味はなんですか。

趣味は…ランニングということになってくるのでしょうか…。



——すごい（笑）。なるほど。まさに休校中は趣味と、自分の体力作りもかねてランニングなのですね。

そうです。

——コロナの中、今年度は記録を出す機会はあったのですか？

普通に今の冬のシーズンは駅伝があって、トラックレースは春になるのでですけど、駅伝はたくさんありますね。また例年よりは少ないのですが、ところどころ記録会は開催していました。

——良い結果は出ました？

いや、記録会はなかなか良い結果が出せなくて、中学のときもそうだったのですが、毎日走ったりとやる気はあるのですが、どうしても結果が出てこなくて、ちょっと困っています。

——努力をしても、なかなか結果に反映されない？

とはいえ、毎日走るのは全員がやっているもので、それは当たり前のことで、そういう点では努力が足りないのかなあと思います。

——聞いていて感じたのは、サッカーやバスケットと異なり、コロナの状況でも走る場所さえあればいいから、そういう点ではやりやすい競技なのかしら。

そうなのです。道があればいいので。自分がやろうという気持ちがあれば練習できるので、それはいえると思います。

勉強のコツ

——勉強のほうでも、特進クラスの中でも好成績を収めていて、立派だなあと感じていました。何か勉強面で自分なりのコツなどはあるのでしょうか。

社会などの教科では暗記や、用語を覚えたりがあると思います。僕の場合は数学においても、解き方等も含めて暗記の側面があると思っています。国語の活用表にしても、暗記がまず土台にあって、入浴中や電車の中で暗唱して、覚えるところをしっかりと覚えて、という感じですか。

——たとえば英単語とかは、どうやって覚えてますか？

まずオレンジ色で書いて、赤シートで隠します。これは定番で、どこでもできます。1回やっただけだと日がたつにつれて忘れるのですが、3日ごととか、思い出したときに続けていけば、すぐ覚えられていいなあと感じています。赤シートはおすすめです。



——数学とかはどうしてます？

最初に、有名な角の $\sin A$, $\cos A$ [注] など、覚えるしかないものは覚えて、あとは教科書の問題を解いて理解するようにしています。ただ、数学に関しては僕も正直理解できていないところもあるので、そこは勉強法に改善の必要もあるように感じます。数学の場合、暗記だけでは効かないと思うので、やり方とか、練習量や計算力をもっと積み重ねていかないというように感じます。

[注] $\sin A$, $\cos A$

サインA, コサインAと読む。高校の数学Iで習う三角比と呼ばれるもの。ここでは、三角定規の辺の長さの比、くらいの意味。



生クリームはだめなんだけど…

——少し軽い話を。先ほど始まる前に話していましたが、生クリームを食べてはいけないとかが、あるのですか？

菓子パンや生クリームは、練習前には禁じられています。

——ところで、好きな食べ物は。

好きな食べ物は、カルボナーラです。

——それこそダメじゃん（笑）、生クリームでできている。

それこそ、カルボナーラを我慢できず食べたら、後悔するんですけど、その時はその分だけしっかり走るという（笑）。

——なるほど〜。うまいよねカルボナーラ。うちの小4の息子も、パスタは迷わずカルボナーラ一択です。お菓子は、あまりパクパク食べる感じではない？

チョコとか食べるくらいです。



——そもそも、生クリームが禁じられているのは、なぜなのでしょう？

生クリームが一番いけないといわれていて、糖質も脂質もとにかく体に悪いと。和菓子なら脂質が少ないわりに糖質があるから、まだ食べても良いといわれているんですけど、生クリームは体に毒で……。

——それは卜部先生（陸上競技部顧問）の教えなのでしょう？

陸上界で一般的に言われていることです。

——軽い話を続けましょう。好きな漫画やアニメとかはありますか？

そんなに見ないです。

——YouTubeとかは？ お気に入りのチャンネルなどはありますか。

YouTubeは結構見ます。お気に入りのチャンネルでは、話も面白いですし、マリオカートをやっていたり、ゲーム実況や、渋谷の若者インタビューなども、面白く見えています。たわいもない話なのですが……。

——うちの息子もゲーム実況のYouTube見た途端に、口調が変わったものね。はまった後から使う言葉が変わってしまい、面白いと見入っちゃいますものね……。

（以下、インタビュアー細谷教諭の息子さんの話がしばらく続くが略）

個性的な先生に囲まれて

——休校が明けて、学校が始まってからの保善高校の印象はどうですか。

保善で最初に思ったのは、女子がいなくて、その分男子校の良さみたいなものを実感しました。女子がいらない分、みんな仲良くしているというか、仲悪い人があまりいない感じがします。あと先生で面白い人が多いと思いました。山田優先生^[注]とか。

——どんなところが？

授業の、始まりの挨拶からして面白いです。

——！？

あと冗談とかを多く言ったり、とりあえず笑っちゃいます。授業でプリントを配るときとかも。英語の説明はすごくまじめな先生なのですが、雑談などの時間はほんとに面白いです。

[注] 山田優先生

本校英語科教諭。特進部部長。男性。



——担任の福岡麗子先生 ^[注] も英語ですが、そちらはどんな感じですか。

福岡先生は英語のプロフェッショナルという感じです。中学まで自分は英語が得意で、分かっているつもりでいたのですが、高校に入ってから、福岡先生は細かいところまで踏み込んで教えてくれるので、まだまだだなと感じました。中学では浅いところまでしか理解していなかったのだなど、福岡先生の授業を受けて思います。

^[注] 福岡麗子先生 本校英語科教諭。英検1級。帰国子女。

——今年は、どうしても行事が少なかったのが、男子校の良さみたいなものを実感する機会が少なかったですね。

そうですね。ただ女子に気を使わなくて良いことで、女の子に話すことが苦手な生徒も含めてみんなで、楽しくやっているなあと思います。もちろん、行事が少なかったのは残念ですが。



——行事といえば、1学年では11月に紺碧（こんぺき）祭を催しました。どうでしたか。

第1部の文化祭の部では、僕らのクラスでは映画を作りました。第2部の、体育祭のほうでは、勝負事になるので、勝ちたいという気持ちでクラスが団結できていたように思います。特進クラスなので、スポーツ推薦のクラスのほうが運動神経が良いと思いますが、それでも競技では負けないぞというところでやる気が生まれていて、その点も良かったと思います。

^[注] 紺碧祭 今年度は文化祭も体育祭も中止になってしまったため、入学後に行事がなかった1学年で、まる一日を費やして紺碧祭という行事を行なった。午前の第一部は文化祭のように展示や発表、午後の第2部は体育祭のように、クラス対抗での競技を行なった。



夢は箱根駅伝

——何か将来の夢や目標はありますか。

将来は、細かいことまでは決まっていらないのですが、今は箱根駅伝を走りたいというのが夢です。

——具体的に大学名などは。

早稲田大学で箱根駅伝を走りたいです。

——おお頼もしい！ 顧問のト部先生も、中央大学時代に箱根駅伝を走っていますね。いつ位からそのような思いを抱いていたのですか。

小さいころから箱根駅伝をずっと見ていて、中学くらいから早稲田大学がかっこいいなと思いました。生で見に行った時にはすごく感動して、より自分もそこで走りたい思いが強くなりました。

——保善からは近いしね。家からも近いのですか。

家からも早稲田大学は近いです。

——2年後楽しみですね。ガンバってください！

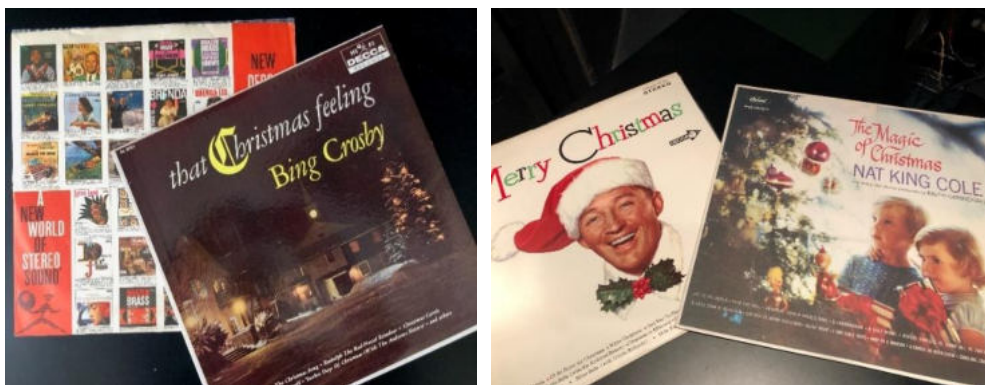




《 1 》

退職を前にして最近、日長一日家にいることが多くなった。そうになるとご多分に漏れず暇である。暇なので何をしようかと思ったとき、長年集めたレコードやそれを再生する装置にエネルギーを費やすことにした。これも退職後の予行練習と言えば女房も文句は言わない。

季節は冬、年の瀬になるとイベントの目白押し、クリスマスがあり、大晦日、お正月と和洋折衷の行事が次々にやってくる。そんなとき、フッと思いだしたのが古いクリスマスレコードのこと、早速、レコードラックの奥をひっくり返し三枚の貴重な音源を発見。1枚はナット・キングコールと2枚のビング・クロスビー、どちらも1955～60年の間に発売されたキャピタルとデッカのオリジナル盤レコード。



オリジナル盤とは、「その曲が発売されたときにプレスされたレコード盤」という確固たる定義があり、アナログレコードでは、オリジナル盤以外のレコード盤は全て再発番と言われる。

コレクターにとっては、オリジナル盤は再発盤より断然音もよく価値が高いとされる。つまり、写真の三枚のLPレコードは今から60年以上前に発売されたものとなるわけだ。

ビング・クロスビーは「クリスマスソングの王様」とよばれ、1942年（第二次世界大戦中）に発売された「ホワイトクリスマス」は全世界で4500万枚を超える大ヒット曲となり、ナット・キングコールの“*The Magic of Christmas*”は彼のクリスマスソングの代表作を集めたコンピレーションで、後に娘のナタリー・コールがフィーチャーした同題名の“*The Magic of Christmas*”はCD化され人気を博している。

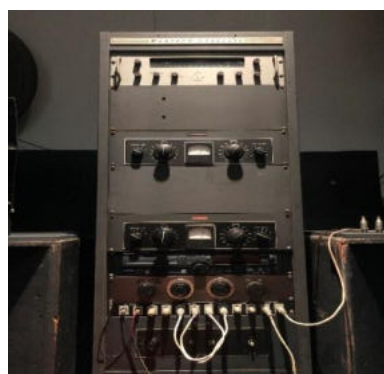
とにかく、塩化ビニールの黒い円盤に針を落とした瞬間に1950年代豊かだったアメリカのクリスマスが時を越えて目の前に現れる。そして、レコード針が黒い円盤の溝をトレースし、微弱電流を拾って、これも同世代（1930年～50年代）の真空管アンプとスピーカーが増幅して音にする様は神秘的で初めてこの装置でレコードを聴いたときは放心状態となり一気に恋に落ちた。今、還暦を過ぎたアナログお



やじの一番の楽しみがこのオリジナルレコード盤の再生となっている。



さて、レコードもオリジナルだが、再生装置も年代物のオリジナルでなければ話にならない。(私の勝手な思い込みですが) しかも、1930～50年代の業務用と言われる装置で放送局や映画館で使っていた所謂プロ仕様の機械。コンシューマー（家庭用）とは一線を画す。プロ仕様と家庭用との違いは、皆さん何となくは理解していると思うが、一番簡単に言い表すとしたら、電源スイッチが何のためにあるのかを理解すればプロ仕様は何たるかが分かる。家庭用の電化製品の電源スイッチは、入れるためのもの（ON するため）で、プロ使用の機械の電源スイッチは切るためのもの（OFF するため）である。つまり、プロ仕様は、一度電源を入れたら 10 時間でも 20 時間でも電源を入れっぱなしで、その状況が 365 日 10 年、20 年続くと考えられた設計となっている。よって、60 年、70 年経とうが、ちゃんとメンテナンスすれば当時と同じ性能で動いてくれる。ただし、修理するための部品調達は困難を極め一個一個の値段が高額となる。



その昔、ラジオに取って変わってテレビが普及してきたとき、ラジオは茶の間から台所や寝室の片隅に追いやられ、何となく聞いているのが、現在の有体となっている。また、次々に新型が登場し 2～3 年も使えればそれでよしの使い捨てに成り下がってしまった。性能が向上すれば小型化が可能になり、大量生産になれば価格の低廉に繋がり、ついには消耗品となる。そこには一番肝心のいい音で聴くという行為は蚊帳の外である。

ただし、自分が好きな音は当人の欲求を満たす音であるのに、他人が満足すると思うと大間違い。偶然同じ感覚の人がいて、納得してく



れる時にささやかな満足に浸るだけである。聞くに堪えない、見るに忍びない（私だけがそう思っている）ものを当人が満足して愛玩しているのに他人が批判したらは僭越も甚だしい。愛しているものを貶されて平然としていられる人間などいるはずもない。

先日のオフ日に 19 インチラックに収まった 1950 年後半アメリカの FM 放送局で活躍したチューナーに灯を入れ聴いていると、22 歳になる息子が通りすがりにこんないい音でラジオを聴いたのは初めて、とボソッと saying いた。息子は、家族に気狂い沙汰と呼ばれるこの装置の唯一の理解者でもある。



《 2 — ベートーヴェン生誕 250 年 》

昨年、クラシック界は稀代の作曲家ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン生誕 250 年を祝って各種イベントが目白押しで、特にドイツのボンにはベートーヴェンがウィーンに拠点を移す 22 歳まで暮らした街として注目されていた。

そんなこともあり、久しぶりにクラシックを聴くのもいいかと思いレコードラックからベートーヴェン交響曲第 4 番を取り出す。普通なら、生誕 250 年の節目を飾ってまず聴くなら、3 番、5 番、9 番あたりでしょ、と思われませんが、実は私がベートーヴェンの交響曲の中で一番好きなのが 4 番なのです。

かつて、ロベルト・シューマンは、「二人の北欧神話の巨人に挟まれた、ギリシャの乙女のような作品」と評し絶賛したことは超有名な話である。交響曲の歴史において大きな発展を記した交響曲第 3 番「英雄」、そして交響曲第 5 番「運命」。この 2 つに挟まれた「ギリシャの乙女とは」果たしてどんな曲なのか？

たしかに、第 1 楽章では、ほの暗い音の中からあたりをうかがうように顔を出す仕草、そして快活に飛び跳ねる躍動美が「乙女」の姿を伝えてくれる。ちょっとした可愛らしい仕草（フレーズ）は、確かに交響曲第 1 番～第 3 番にはなかったかもしれない。

とは言っても私には、クラシックの専門的知識がないので、所有しているレコードの聴き比べで話を進めます。

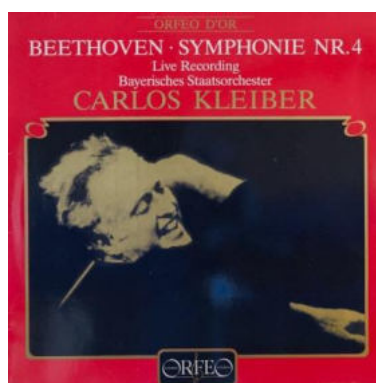


私の所有するベートーヴェン交響曲第4番のレコードは、オットマール・スウィトナー指揮 シュターツカペレ・ベルリンオーケストラとカルロス・クライバー指揮 バイエルン国立管弦楽団の二枚である。

オットマール・スウィトナー指揮の第4は、全くトラディショナルであり、無類の安定感を誇る大地の母なる演奏。乙女と言うより慈愛に満ちた「女神」を彷彿させ、聴く者全てを包み込む大きな「愛」を感じさせる。

また、カルロス・クライバー指揮の第4は、単に華麗なほほえみを周囲に振りまくようなタイプの乙女ではなく、なかなか芯の強い女性を描き出す。要所要所に力強い音で引き締めるカルロス・クライバーの解釈は、豪気な性格のベートーヴェンが創作した「乙女」だと納得させられるだろう。

同じ曲なのに指揮者、演奏者のその作曲に対する解釈の仕方ですべて印象が異なる演奏になるのもクラシックの醍醐味と言える。私はどちらの演奏も大好きである。



その音を忠実かつ私の好む音で再生してくれるのは、ウエスタン・エレクトリック社製の機械群。ここで、敢えて「機械」と表現するのは、いわゆるアンティークオーディオのようなものとは一線を画す「装置」と呼ぶに値する当時の科学の粋を集めたアンプたちである。写真左ラックに収まったメインアンプの86Aと一番下に堂々と鎮座するブースターアンプ87C、いずれも1940~50年代トーキー映画全盛期のころ実際に映画館で活躍したアンプたちである。当時このアンプ1台で家が1軒買えたと言う逸話が残る高価なアンプでもある。

また、ウエスタン・エレクトリック社は、再生装置だけではなく、録音装置も配給しており、当時、東映大泉、松竹大船、大映多摩川、日活多摩川、それに関西地方の京都大映太秦などの撮影所に装備されていた。まさに昭和の映画産業の一端を担っていたのである。この装置によって録音再生された石原裕次郎の名演技や美空ひばりの熱唱は日本中を席卷し、国民的ヒーローやアイドルとなったのである。



この新型コロナウイルスの世界規模でのパンデミックを 250 年前に生まれたベートーヴェンは予測もしえなかったのではないかと思うが、それでも世界中の人々はベートーヴェンの偉業を称え、世界中で記念的行事が開催された。

コンサートホールに足を運び、無類の美しい音に身を包むことが困難な現状の中、自宅で好きな時間、好きな音でベートーヴェンを聴く至福の時間があることに今は感謝している。



【もりもたつお／保健体育科教諭】